

あったそうです。ことに、従来全く関係がなかった方から、いわゆる「飛び込み」の申し込みがあったことは、インターネットの真価を示すものとして象徴的な出来事です。

更新作業は、わたしと野口さんが分担して行いました。ほぼ1週間に1回程度は更新できたと思います。ただ、実行委員会事務局とのコラボレーション(共同作業)には課題を残しました。

協同集会特設ホームページへのアクセス数は調べていません。ただ、ネットワーク管理者の山田さんによると、協同集会ホームページを立ち上げて以降、労協連のレンタルサーバーへのアクセスカーブが顕著に上がった、との証言があります。アクセス数はカウンターを付ければ直ちにわかることでしたが、今回はそこまで技術と根性が追いつきませんでした。

なんにしる、初めてって大変なことです。われながらよくやったと思ってます。野口さんも、山田さんも。皆さん、誉めてやって下さい。

単なる一歩か？偉大なる一歩か？

にもかかわらず、いまから振り返ってみて、反省点は山のようにあります。

例えば先のHPそのものに関していえば、「協同集会の歴史」「物品販売を希望する方への申し込みフォーム」、「過去の集会の写真特集」などのページを作ることも考えていたのですが、結局出来ませんでした。また準備過程をHPにシンクロさせるという点では、十分やり遂げることが出来ませんでした。

HPの活用という点では、過去の協同集会やヘルパー交流会、国際シンポ、雇用シンポなどの各種催しにご協力いただいた組織や個人の方に広く宣伝し、それらの組織・個人が主宰ないしは関係するHPとの相互リンクを張るといったことや、あるいはメールアドレスを収集し、電子ネットワークを構築するなどという構想(「バーチャル協同ネット」あるいは「e-協同モール構想」)もあったのですが、残念ながら方針倒れに終わりました。

とはいえ個々人の努力には特記すべきものがあったことを言っておかなければなりません。コンテンツ制作作業の中心になった野口さんは、「JA全農」のHP(<http://www.zennoh.or.jp/forum/bbs/enter.htm>)、「福祉チャンネル」のHP(<http://www.fukushi.com/guestbook/custombbs.cgi>)の掲示板に投稿したり、「大学生協連」のリンク集(<http://www.univcoop.or.jp/member/index.html>)から各単協のメールアドレスを収集してメールを送ったり、獅子奮迅の活躍ぶりでした。研究所事務局長の飯島信吾さんは、参加している「民衆のメディア・メーリングリスト」や「出版ネッツ・メーリングリスト」に情報を発信されています。

情報社会論においては、個人がインターネットなどのツールを駆使することによって、主体の能力を拡張できること、すなわちエンパワーメントされる可能

性が論じられています。しかしそのためには、主体が謙虚になること、絶えざるリフレクション（自己照射あるいは自己反省）が必要です。

「いや、作業してみて、いかに、われわれが、一般性のない言葉を使っているかが身にしみてわかりました」とは、野口さんの述懐です。「顧客」が限定された『労協新聞』に情報を発信するのと、不特定多数を相手にするウェブサイトに情報を発信するのは、まったく位相を異にするものであり、その位相の違いを意識することが情報主体を変革するという関係が、端的に言い表されています。

ともあれ、わたしたちはインターネットが拓きつつある広大な情報の海に乗り出したわけです。正負いずれの経験にしろ、未だオンゴーイングの過程ですから、全ては挑戦的試みです。この試みを「単なる一步」にするか、はたまた「偉大なる一步」にするかは、これからのわたしたちの情報リテラシー（使いこなし能力）の向上にかかっています。

協同集会ホームページは常設します

さて、積み残した課題もありますので、協同集会特設ホームページは今後とも常設ホームページにすることにしました。取りあえずは、2000年集会の記録をこのサイトに全て収録します。そしてゆくゆくは、このサイトが協同集会に集った個人や組織の交流の場＝「バーチャル協同ネット」あるいは「e-協同モール構想」に成長発展するように運営していきたいと思っています。

そのための第一弾として、「協同集会写真集」を作成しました。豪華絢爛(ム;) 3本立てになっております。

- (1) 全体集会編 <http://kyodo-net.roukyou.gr.jp/slide1/slide1.html>
- (2) リレートーク・交流会編
<http://kyodo-net.roukyou.gr.jp/slide1/slide2.html>
- (3) 分科会編 <http://kyodo-net.roukyou.gr.jp/slide1/slide3.html>

協同集会を一時的イベントに終わらせることなく、ネットワークを持続させるために、どういうことが必要なのか、考えられるのか、皆さんの考えをお聞かせいただければ幸いです。

HP研究会と子育て協同組合「あざみ」のHPの立ち上げ

ということで、研究所も含めて労協連関係組織のメンバーのネットリテラシー（使いこなし能力）を高めることは、緊急かつ重要な課題です。という課題意識のもとで、2000年春から労協連関係組織を対象に実学に徹した「HP（ホームページ）研究会」を立ち上げ、月1回のペースで研修を積み重ねてきました。メンバーは回を重ねるごとに増えては来ているのですが、固定的には10名前

後、労協連のIT化を進める有力メンバーに育ってきています。

その研究会の共同作業で、2000年12月中旬、一つのHPを立ち上げました。東京・板橋でワーカーズコープ方式で育児・子育てを事業化しようと奮闘している「ワーカーズコープ・あざみ」のHPを制作し、サーバーにアップしました。

もちろん、プロの制作者のようにはいかず、アレコレ試行錯誤はあったのですが、ともかく、ごく普通の人々がごく普通の技術を使って全世界に情報を発信することができるということは実感できたのではないかと思います。「HPも難しくない！インターネットだってもう平気！」。

素人集団が作ったものですので、アチコチに穴があるのは当然で、それがまたインタラクティブなコミュニケーションを呼び起こすことになるのです。情報理論でいう、ヴァルネラビリティです。以下のURLで「HP研究会」の共同作業の成果第1弾を、是非ご覧ください。

<http://ikuji-net.roukyou.gr.jp/>

なお、わたしは労協連加盟組織、あるいは関係組織がそれぞれ労協連レンタルサーバーを利用して、ホームページを立ち上げることが、労協や高齢協の新たな展開にとって非常に有効な方策だと信じています。「徹底民主主義」にしる「情報の共有」にしる、それを現実にする技術、能力、意志を身につけた個人や集団の成長に裏付けられない限り、単なるお題目にとどまるのみならず、やがては抑圧的言説と機構に転化することは20世紀の最大の教訓の一つでしょう。

私的インターネットびっくり体験...予告編...

さて、このJICR.ORG通信も1周年。おっかなびっくり研究所のIT化に取り組んでから1年半ほどになります。なにしろ、典型的団塊世代の「オジンルイ」のわたしですから、インターネット体験は「毎日が発見」の連続（そういえば、この雑誌の名前は『協同の発見』でしたね）。年末から年明けにかけての忙しい時期にもまたまた新しいびっくり体験をさせてもらいました。格好良く言うなら「世紀越えIT体験」ということになりますか。

何事も「初体験はうれし恥ずかし、多きもの」。なにしろインターネットに関しては「毎日が発見」の連続ですから、「私的インターネットびっくり体験」を語らせればネタはつきないのですが、あいにくと紙数が尽きました。あとは次回のお楽しみということにしておきましょう。さて、何が出てくることやら...